

平成25年度一般財団法人朽木むらおこし公社事業計画書

【地域活性化事業】(公益継続事業)

地域の活性化を図るため、地域の観光を推進する会(地域活性化委員会)を公社が主体となって、今まで地域で観光振興に取り組んできた組織やまちづくり活動に関わってきた団体等と連携して組織し、これまで取り組んできた地域活性化事業を継続してより拡大していきます。

公社で事務局を担い、朽木の豪雪地域の本当の自然や、原生林、巨木等を紹介したパンフレット作成、朽木地域の四季をリアルタイムで紹介するホームページの運営および誘客等地域観光の総合プロデュースを行います。

地域体験プログラムの開発、イベントの開催、地域加工品の開発および販売等、それぞれを一体でプロデュースすることで、朽木地域の活性化と豊かな地域資源を活用した事業を推進し、もって地域の文化・産業の振興に寄与します。

1. 地域体験開発事業

・事業内容

歴史、文化、自然等の地域資源を活用して行われている体験プログラムの集約と新しいプログラムの開発を行い、そのプログラムを活用した地域体験型のツアーの企画と発信を公社で行います。

そして募集および実施を(社)びわ湖高島観光協会等旅行業者に依頼して広く地域を訪れる方を募ります。

地域体験型のツアーを実施するにあたり、地域の方も参加できる環境を作るため、ボランティアガイド育成の講習会を開催します。

2. イベント事業

・事業内容

朽木らしい自然等を活用した月ごとのイベントの企画から運営を公社が主体となり高島市や地元関係団体と連携しながら、道の駅くつき新本陣や針畑ルネッサンスセンター周辺等地域全体を使って、春は桜や山菜などを使ったイベント、夏はアユや野菜を使ったイベントと夏祭り等を、秋は収穫のイベントと鯖・美・庵まつり、冬は雪の体験イベントなど都市生活者との交流や地域の魅力を発信し、併せて観光振興に努めます。

4月朽木桜まつり・5月朽木食まつり・6月朽木清流まつり・7月朽木軽

トラ市・8月朽木ふるさとまつり・9月朽木新米まつり・10月朽木秋の収穫祭・11月朽木鯖・美・庵まつり・12月朽木キャンドルまつり・1月朽木餅つきまつり・2月朽木雪まつり・3月朽木力汁まつり等、その他地域起こしに繋がるイベントの開催。

3. 特産品加工事業

・事業内容

農産物や加工品など地域性のある商品を安心、安全に提供するための検討会をはじめ、パッケージの制作等を含めて地域特産品の商品開発を自家消費だけでなく、付加価値のあるおみやげ物としての商品化までを念頭に、生産者と協力しながら行います。

また、開発した商品の販路についても、グリーンパーク思い出の森売店や道の駅くつき新本陣売店、近隣の道の駅売店、グリーンパーク思い出の森のホームページを利用したネット販売は元より幅広い販路の開拓に努め、朝市などの高年齢化した担い手の世代交代を促し地域の活性化に寄与します。

【グリーンパーク思い出の森・朽木スキー場事業】

グリーンパーク思い出の森は平成23年度決算において、大きな赤字となりました。

売上については、前年度を5,520千円程上回りましたが、これは市民サービスも考え7月20日以降無休営業に切り替えた事による増加も含んでいません。

しかしながらその一方で、周知が中々上手く行かず売上が思うように伸びず、それに伴い経費が増加した事も原因と考えられます。

平成19年度より1割ずつ減少してきた売上は平成21年度が底となり、平成22年度より僅かではありますが増加傾向になって来ました。

これは、22年度より取り組んで来た滋賀県内老人クラブ連合会21カ所への営業回り、大学生協滋賀県5大学、京都府14大学、大阪府11大学、兵庫県9大学、愛知県12大学、岐阜県2大学への営業回りなどと共に地産地消メニューの開発、地域を巻き込んだイベントの開催などの効果が少しずつ現れてきたものです。

レストランの営業活動に関しては、滋賀県内老人クラブ連合会の営業回りだけに止まらず、地元や葛川エリアの方へ法事や会席料理のチラシの折込や手渡しで利用の促進をしています。

温泉利用者に対するご入浴お食事サービス券の発行を行い、レストランやてんくう内ラウンジの利用促進を24年度から行っていますのでさらにこのサービスを続けて温泉利用だけでなく食事も合わせてご利用いただけるように努力をしていきます。

さらに、平日と週末、平月とゴールデンウィークや7月、8月などファミリー層と年配の方などの利用客の傾向に併せて地産メニューとファミリーメニューなどを販売して売上に繋がります。

今後もグリーンパーク思い出の森施設を有効に活用した誘客や地域の観光を活用した誘客と一度来訪された方がもう一度訪れたいと感じていただける対応でリピーターを増加させて売上増を目指します。

経費面に関してもパート職員などの人員配置の見直し、消耗品費、光熱水費、原材料費など23年度で増加した原因を追及し今後の運営の健全化のため経費削減に努めます。

また、現在グリーンパーク思い出の森と朽木学校前間を運行する無料シャトルバスの時刻表による定時運行を改め、道の駅くつき新本陣で受付をして、利用者が必要な時だけ運行するなど効率的化を図ります。

3施設を運営するにあたり、朽木オートキャンプ場の予約をグリーンパーク思い出の森で一括で受付をし、連携して道の駅くつき新本陣でも直接予約を取るなど無駄を省く工夫をして合理的な経費運用をいたします。

この様な取り組みと併せて、グリーンパーク思い出の森会計と朽木スキー場会計を分離し、これまでスキー場収入に頼っていたグリーンパーク思い出の森会計について、単年度で黒字化し、市へ1,000千円の納付金を納めます。

今後この会計には、朽木スキー場からの補填は一切いたしません。

また朽木スキー場においては、1シーズン降雪がないと25,000千円の赤字となります。

2シーズン雪が見込めないという想定で積立金50,000千円を常時確保することを目指し、年度末において50,000千円を超える金額について、グリーンパーク思い出の森会計から納付金1,000千円にプラスして、次年度の市への年度協定納付金に加算します。

以上のとおり、これまでの経営状態について経営分析し、職員の意識改革を進めると共に、スキー場収入と合算した経営体質についても見直しをいたします。

【道の駅くつき新本陣事業】

道の駅くつき新本陣を運営するにあたり、グリーンパーク思い出の森施設内における売店販売、レストラン経営の実績はありますが、観光案内業務や朝市組合による朝市の運営についてのスムーズな移行と地域の雇用の確保も含めて、これまでくつき新本陣の運営に携わって来られた臨時・パート職員の希望者に対して再雇用を考えております。

正規職員については、公社が定める職員規定に基づいて、2名の採用を考えています。

各地の道の駅の中で賑わっている施設の特徴は、野菜販売スペースの充実、販売商品の分類されたディスプレイと地元産をアピールする商品パッケージ等の工夫がされています。

このような施設を参考にしながら、売店業務については現在の売店の狭いスペースを有効に活用するため、レイアウトを最初から見直し、道の駅に立ち寄る方が売店に入りたくなるような導線を野菜販売スペースで作ります。

朝市の野菜販売を常設することも視野に置き、季節によっては朝市のテント部分を活用して野菜販売を行う事も行って行きます。

野菜以外の加工品に関しても、地域性のある商品を生産者と協力しながらパッケージの制作、顔の見えるレイアウト作りをして、自家消費だけでなくお土産として価値のある商品作りをしていきます。

朝市に関しては、現在開催されている日曜・休日に加え土曜市を4月から11月の間月1回開催します。

その状況を見ながら、年度ごとに開催回数を増やし、賑わう道の駅として運営をしていきたいと思っております。

また、ホームページを通じて朝市情報を発信し、季節ごとの旬の商品紹介やネット販売など新しい販売方法で利用促進を行います。

そのために職員1名に売店業務と朝市業務を責任をもって運営をさせます。

レストランについては、2階部分にあるため集客が難しい状況ではありますが、グリーンパーク思い出の森の料飲課専門職員に責任を持ってメニュー作りから仕入も含めて担当させ、従来からの運営と利用状況を確認しながら顔の見える食材を使った季節ごとのバイキングメニューを取り入れて、何度も訪れたいくなるレストラン経営をしていきます。

グリーンパーク思い出の森と連携した一括仕入やメニュー開発、閑散期と繁忙期の伸び縮みのあるパート職員の配置など経費の削減に努めると共に、サイン看板の設置等を行い集客に努めます。

冬の閑散期も朽木スキー場との連携で積雪情報の表示やリフト券の割引販売などを行い、スキー場利用者のチェーン装着場としての利用も促し、スキー客を取り込む工夫を行っていきます。

観光案内業務については、職員1名を担当させ、朽木地域のPR、誘客、地域観光のプロデュース、エリアマップの作成などを行うと共に、1月は餅つきイベント、2月は雪祭りイベント、3月は力汁イベントなど月ごとに地域が元気になるイベントを開催します。

併せて、道の駅周辺だけではなく針畑地区などエリアにとらわれないイベント開催などにより地域全体の観光をびわ湖高島観光協会と連携を取りながら進めてまいります。

新本陣の収支予算に関しましては、劇的な変化を初年度から成し遂げることは厳しい状況です。

初年度につきましては、備品などの初期投資が発生します。

またインターネット販売についても普及に少し時間が必要となります。

今後、3施設を一体となって運営し、経費の節減、利用客の増加や一度訪れた方々をリピーターとして迎え入れる工夫などに務めながら、最終5年目には、指定管理料を4,900千円に縮減して行きます。

それぞれの施設が一体となり積極的な運営をしつつ、びわ湖高島観光協会と連携し、地域での観光振興の受け皿になり地域の観光振興を目指してしていきます。

今後、観光案内所においては、これまでの案内業務に止まらず、地域の観光業者と連携して様々な情報を提供し、地域の誘客のための企画などを行うため、財団法人朽木むらおこし公社内に「鯖街道総合案内所(通称：さばナビ)」「鯖街道・朽木オフィス」などの名称を用いた組織を立ち上げて運営をしてまいります。

この様に、道の駅くつき新本陣の施設運営に加え、この地域に根ざした財団法人朽木むらおこし公社だからこそできる地域観光と地域の活性化に寄与する運営を進めていきます。

【朽木オートキャンプ場事業】

朽木オートキャンプ場の運営につきましては、現在高島市森林組合が指定管理者として運営されていますが、この施設の問い合わせがグリーンパーク思い出の森に入ってくるが多々あります。

この要因は、予約先の森林組合は土・日・祝日が定休日のためお客様が予約の問い合わせをしても繋がらないため、グリーンパーク思い出の森にお問い合わせがあるという状況からです。

この施設につきましては、予約の取りこぼしがあることやインターネットなどの予約システムやホームページでの情報発信も整備されていません。

当施設の施設利用案内や予約システムについて、財団法人朽木むらおこし公社の施設に含めホームページなどで情報発信を行い、グリーンパーク思い出の森施設の宿泊施設と連携し満室時の対応として、オートキャンプ場の利用をお勧めするなどの対応が可能となります。

さらに、川辺にあるオートキャンプ場で温泉施設も近くにある事をもっとアピールして、京阪神のアウトドアショップ、近隣の道の駅にチラシを配布し、アウトドアショップやメーカーと連携したキャンプ用品の展示会や講習会の開催で少しでも多くの方にこのオートキャンプ場を知っていただき利用の促進を図ります。

また、財団法人朽木むらおこし公社は食肉販売等の食品衛生法の許可を得ていますので、オートキャンプ場のお客様に食材の提供も可能になります。

現地での受入体制につきましては、グリーンパーク思い出の森の宿泊担当職員で人員配置を組み、通常時は臨時職員で清掃業務や受付業務を行います。

繁忙期にはグリーンパーク思い出の森や道の駅くつき新本陣の臨時職員も含め午後からの受付業務や朝からの清掃業務に対応をして効率よく運営を行います。

この様にして、今以上の利用者増に繋がるよう施設運営に努めてまいります。

そのため、オートキャンプ場を利用されるお客様へくつき温泉てんくうの利用割引券の発行や朝市の紹介、新本陣のレストラン割引券発行などを行い、グリーンパーク売店や新本陣レストラン、朝市の売り上げ増を図って行きたいと考えています。

これまでも指定管理料はいただいていた施設でありましたが、さらに攻める観光事業を展開し、市への納付金500,000円を収支予算に計上し、精一杯努力して施設運営してまいります。